

銅・アルミ

市況見通し

5月

銅

3月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比で4・3%減の5万6430ト。前年同月比で27カ月連続のマイナスとなった。これだけ長期のマイナスは1980年から82年の931ト、銅スクラップが同12・1%増の4万555ト。銅輸入は、電気銅が28カ月連続マイナスの33・6%減の583ト、銅スクラップが同2020年よりも少ない15・3%減の1万360ト、09年のリーマンショック以来の少ない量1トだった。

3月の銅電線出荷量（推定値）は同プラスマイナスゼロの5万5300トで、うち国内が同3%減、輸出が同129・2%増となった。

銅輸出は、電気銅が同5・1%減の6万3

橋本アルミ取締役 橋本 健一郎氏レポート



5月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	9500~10500 ^F ル	強い
電気銅建値	147~160万円	強い
為替（1 ^F ル）	150~158円 (1カ月間TTM)	円安

銅スクラップ景況予想

4月の電気銅建値は月初に138万円。下旬には156万円へと急騰した。流通（二次問屋）の4月在庫は、伸銅品の生産減および発生減により品薄となった。需要面はやや引き締まった。自動車生産量は27カ月連続で減少しているが、来月以降の生産回復が期待できる。

「日銀の金融政策」では、ドル円が160円を付けた状態で介入があったとの見解や、再び155円台で2回目の介入があったとの見解がある。また、岸田首相と日銀の植田総裁が会談し、「密接な連携」を確認した。これらのことから150~158円のレンジ内での動きになると予想している。

LME銅・為替予想

「米・FRBの金融政策」では、FRBは6会合連続で政策金利を据え置いた。パウエル議長は「次の政策金利の変更が利上げになる可能性は低い」と、ハト派的な姿勢も示した。これらのことから

年内の利下げ期待が台頭した。今後は利下げも意識した展開になるのではないかと見ていく。

減の5万2494トだった。3月のアルミ二次合金・同合金地金生産は同4・2%減の6万276ト（4カ月連続のマイナス）。出荷は同5・6%減の6万949ト（3カ月連続のマイナス）だった。輸出はアルミ新地金減の417ト、アルミ合金スクラップが同205ト、アルミ二次合金・7%減の6858トだった。

「米・FRBの金融政策」では、FRBは6会合連続で政策金利を据え置いた。パウエル議長は「次の政策金利の変更が利上げになる可能性は低い」と、ハト派的な姿勢も示した。これらのことから

アルミ

3月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は同13・7%減の13万9593ト。1カ月ぶりに前年同月比でマイナスとなった。生産量は板類が同15・9%減の8万7099ト、押出類が同9・7

5月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買い	2400~2600 ^F ル (現物後場買い)	強い
スクラップ	プラス5~10円 (前月最終価格より)	強い

アルミスクラップ景況予想

LME価格は2300トから2500ト台へと上昇傾向だった。ダイハツ・トヨタ問題の影響も収まり需要は回復、流通（二次問屋）の在庫は少ない。

需要面は、前月からさらにダイハツ・トヨタ問題の収束や、中国の「買い姿勢」から回復、需給が引き締まり